

授 業 科 目 名	教育の法と制度(Education Law and System)		
科 目 番 号	9200411	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	月曜・6 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	人文・応理・エシス・比文・日日・社工・教育・心理・障害・知識・体育対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	藤井穂高		
オ フ ィ ス ア ウ ー	月曜3限、金曜4限		
授 業 の 到 達 目 標	教育の法と制度について基本的な知識を持つこと。 学校教育の基本問題について、一定の教育的な知見を持つことができること。		
授 業 の 概 要	教育の法と制度について、基本的な学校の制度、学校教育を支える仕組み、多様な学びの場について、概説する。		
授 業 計 画	第1回 教育の法と制度の基礎 第2回 小学校 第3回 中学校 第4回 高等学校 第5回 大学・専修学校 第6回 義務教育・特別支援教育 第7回 学校経営・教育行政(学校安全と危機管理) 第8回 学校と家庭・地域の連携 第9回 教員制度 第10回 生涯学習 定期試験		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポートと期末試験で評価する。		
テ キ ス ト	藤井穂高編著『教育の法と制度』ミネルヴァ書房、2018 年		
参 考 文 献	講義の中で適宜指示する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	授業前は配布した文献・論文などを読み、要点と自分の意見をまとめる(予習 1 時間)。授業後は授業内容を振り返り、論点と課題を整理する(復習 1 時間)。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	旧課程の教育基礎学 I および III に対応。		

授 業 科 目 名	教育の法と制度(Education Law and System)		
科 目 番 号	9200421	授 業 形 態	講義
単 位 数	1単位	標 準 履 修 年 次	1年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	月曜・4時限
対 象 学 群 ・ 学 類	生物・地球・数学・物理・化学・創成・医学・看護・医療・芸術・社会・国際・資源・情報対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	川口 純		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	教育制度について基本的な知識を持つこと。 学校教育の基本問題について、一定の教育的な知見識を持つことができること。		
授 業 の 概 要	教育の法と制度について、基本的な学校の制度、学校教育を支える仕組み、多様な学びの場について、概説する。		
授 業 計 画	第1回 教育の法と制度の基礎 第2回 小学校 第3回 中学校 第4回 高等学校 第5回 大学・専修学校 第6回 義務教育・特別支援教育 第7回 学校経営・教育行政(学校安全と危機管理) 第8回 学校と家庭・地域の連携 第9回 教員制度 第10回 生涯学習 定期試験		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポートと期末試験で評価する。		
テ キ ス ト	藤井穂高編著『教育の法と制度』ミネルヴァ書房、2018年		
参 考 文 献	講義の中で適宜指示する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	旧課程の教育基礎学ⅠおよびⅢに対応。		

授 業 科 目 名	教育の法と制度 (Education Law and System)		
科 目 番 号	9200431	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	月曜・5 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育 1～5 クラス対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	藤井穂高		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜3限、金曜4限		
授 業 の 到 達 目 標	教育制度について基本的な知識を持つこと。 学校教育の基本問題について、一定の教育的な知見を持つことができること。		
授 業 の 概 要	教育の法と制度について、基本的な学校の制度、学校教育を支える仕組み、多様な学びの場について、概説する。		
授 業 計 画	第1回 教育の法と制度の基礎 第2回 小学校 第3回 中学校 第4回 高等学校 第5回 大学・専修学校 第6回 義務教育・特別支援教育 第7回 学校経営・教育行政(学校安全と危機管理) 第8回 学校と家庭・地域の連携 第9回 教員制度 第10回 生涯学習 定期試験		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポートと期末試験で評価する。		
テ キ ス ト	毎回の講義で資料を配布する。		
参 考 文 献	講義の中で適宜指示する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	授業前は配布した文献・論文などを読み、要点と自分の意見をまとめる (予習 1 時間)。授業後は授業内容を振り返り、論点と課題を整理する (復習 1 時間)。		
受 講 学 生 に 望 む こ と			
備 考			

授 業 科 目 名	教育の法と制度(Education Law and System)		
科 目 番 号	9200 441	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	月曜・5 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育 6～10 クラス対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	タスタンベコワ・クアニシ		
オ フィ ス ア ワ ー	人間系棟 A544 月曜日 昼休み 内線 4596		
授 業 の 到 達 目 標	教育制度について基本的な知識を持つこと。 学校教育の基本問題について、一定の教育学的な知見を持つことができること。		
授 業 の 概 要	この授業では日本の学校教育制度における外国人の子どもの教育を保障する措置について学ぶ。		
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 授業の概要、資料の説明 日本社会の多文化・多言語化に関するディスカッション 第2回 日本の在留外国人状況 第3回 公立学校に在籍する外国人児童生徒の状況 第4回 外国人子どもの教育を受ける権利の保障(憲法、教育基本法、学校教育法の規定) 第5回 公立学校に在籍する外国人児童生徒の日本語教育制度 第6回 不就学の外国人子どもの状況と教育行政の対応 第7回 外国人子どもの公立学校以外の教育機会 第8回 外国人子どもの教育の自治体別対応の状況 第9回 外国人子どもの教育への地域社会の対応 第10回 全体のまとめ、試験		
成 績 評 価 方 法	毎回の出欠確認兼振り返りシートの内容と期末試験の総合点で評価する。		
テ キ ス ト	荒牧重人、他編『外国人の子ども白書—権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』明石書店、2017 年 里佐藤郡衛『多文化社会に生きる子どもの教育—外国人の子ども、海外で学ぶ子どもの現状と課題』明石書店、2019 年		
参 考 文 献	講義の中で適宜指示する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	講義中に出す課題に関する自習		
受 講 学 生 に 望 む こ と	授業中に積極的に自分の意見を述べること。		
備 考	旧課程の教育基礎学ⅠおよびⅢに対応。		